

散策空間の整備に関する空間評価要素の考察 *

Spatial Evaluation Elements for Improvements of Promenade Spaces

和田章仁**

Akihito WADA

1. 研究目的

本研究は都市環境のアメニティ形成に貢献する都市空間づくりの在り方を探ろうとするものであるが、こうした概念が明確に確立しているわけではない。このため、積極的に都市に生きる喜びを感じさせる『散策』に着目して、その特性を把握・分析することにより、快適な都市空間の形成のための糸口を探ろうとするものである。そこで、本稿を進めるうえでの前提となる研究¹⁾²⁾では京都市民の散策行動に対するアンケート調査を実施し、散策行動を把握・分析している。

これらの研究の分析結果から得られた京都の代表的な散策地に着目し、各散策地における散策状況や現実の散策行動を通しての空間評価等についてインタビュー調査を実施した。また、同時に散策速度調査についても行った。これらの調査結果を分析することにより、散策行動から得られた空間評価要素が散策空間とどのように関わり、かつ散策空間のアメニティ形成にいかに関与するかを考察した。

2. 調査の内容と方法

良質な散策空間を有している京都を対象とした散策行動についてのアンケート調査の分析結果から、市民の多くが散策を行っている場所で、なおかつ自宅から散策地までの距離が近い、あるいは遠い（後述）のどちらにも特化していない9箇所に対して調査を実施した。調査は1995年4月に、現地で散策を行っている人々に対してインタビュー方式で行った。

*キーワード：観光・余暇、空間設計、歩行者・自転車交通計画

**正会員 工博 福井工業大学建設工学科

(〒910 福井市学園3 6-1 TEL.0776 22 8111

FAX.0776 29 7891)

表-1 インタビュー調査の内容

調査項目	内 容
個人属性	・性別、年齢、職業 ・居住地（区および小学校区）
散策状況	・徒歩以外の利用交通手段 ・散策理由
空間評価	・不満事項 ・空間評価Ⅰ（12項目、5段階評価） ・空間評価Ⅱ（総合評価、5段階評価）

調査箇所は宝ヶ池、北山通、植物園、下鴨神社、鴨川、御所、北野天満宮、嵯峨野および嵐山の9箇所、表-1にインタビュー調査の内容を示す。有効サンプル数は1箇所あたり40サンプルを確保し、合計360サンプルを取得した。

さらに、散策速度調査を距離と時間の測定が比較的容易である直線的な散策空間である鴨川において実施した。調査方法は現地での散策者に対する追跡により実施し、サンプル数はインタビュー調査と同じく40サンプルとした。

3. 散策行動の実態

(1) 散策の状況

散策を行っている人のうち65%が京都市内からの散策者であることから、約3人に2人が京都市民である（図-1参照）。また、この市内在住者の内、何らかの交通手段を利用している人は56%もいることがわかった。この交通手段を利用している散策者の内、自家用車（代表交通手段）の利用率が45%と高い率を占めている。次いで、自転車、鉄道、バスの順になっている（図-2参照）。

一方、散策理由は「楽しみのため」「健康のため」「気分を変える」の3項目で約9割を占めている。そのなかでも「楽しみのため」が40%と高い割合を

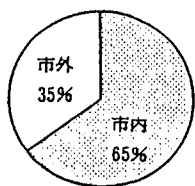


図-1 散策者の居住地

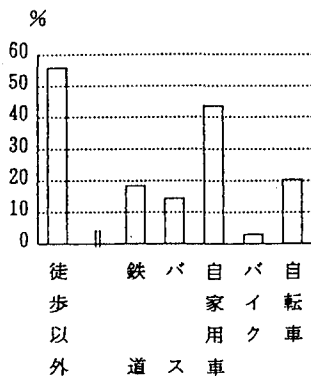


図-2 徒歩以外の交通手段

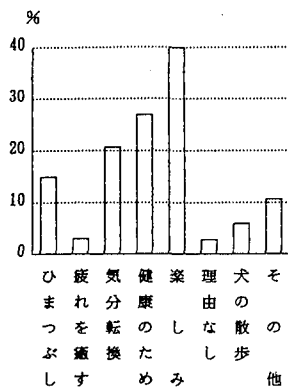


図-3 散策者の散策理由

示していることは、これらの散策地における快適性が高いことを証明している（図-3 参照）。

(2) 散策距離と交通手段の関係

京都市内に居住している人を対象に、散策地までの距離の類型化を行った。すなわち、散策先が自宅のある学区内、あるいは隣接の学区までであれば「近隣型」、隣接学区を越えて遠くになれば「遠出型」と定義した（図-4 参照）。

この散策距離の類型化により集計を行った結果、表-2に示すように「遠出型」が過半数を占めていることから、自宅から遠く離れた調査対象地まで散策に来ており、これら調査対象の散策地が京都を代表する質の高い散策地であることがわかる。

また、散策距離が利用交通手段に与える影響をみると、「近隣型」では大部分にあたる75%が徒歩だけによる散策であり、残りをほぼ自家用車と自転車に分け合っている。このように、近くにもかかわらず自家用車の利用率が10%を越えていることは、自宅から散策地までの間に快適な散策空間が少ないことが理由の1つであると思われる。

(3) 散策形態別の散策速度

散策形態をみると、散策者の多くが「ひとり」あるいは「二人連れ」であることから、この2形態に着目して調査を行い、その結果を表-3に示している。これによると、「ひとり」では男性は4.7km/時であり、女性の4.4km/時より早いことがわかる。また、形態別では「ひとり」は4.6km/時であり、「二人連れ」の4.0km/時より早いことがわかった。

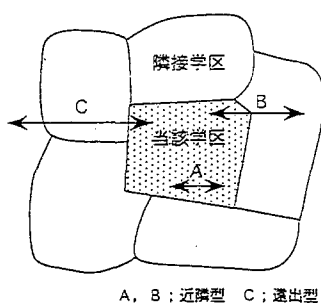


図-4 散策距離の類型化

表-2 散策距離別の利用交通手段

	近 隣 型		遠 出 型	
	件数	%	件数	%
徒 歩	83	74.8	20	16.1
自家用車	13	11.7	45	36.3
鉄 道	1	0.9	24	19.4
バ ス	0	0	18	14.5
バイク	2	1.8	2	1.6
自 転 車	12	10.8	15	12.1
合 計	111	(47.2)	124	(52.8)

表-3 散策形態別の散策速度

ひ と り		二 人 連 れ		全 体
男性	女性	異性	同性	
4.74	4.40	3.95	4.10	
4.63		3.98		4.36

単位；km/時

これは、「二人連れ」は会話をしながら散策していることによる遅れであると思われる。

また、全体としての散策速度は4.4km/時であり、先のアンケート調査²⁾結果の4.0km/時と比較して

若干早くなっている。この理由としては、今回の追跡による速度調査ではベンチなどでの休憩の時間を含まない純然たる歩行速度であることから、若干早くなっていると考えられる。

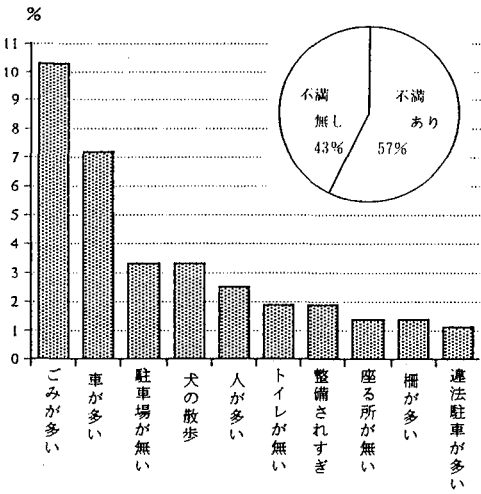
（４）散策地に対する不満事項

調査の中で、被験者に散策地に対する不満点を尋ねている。これらを集計すると、「不満なし」は約43%であることから、逆に約60%近い人が何らかの不満を感じていることがわかる。この内、不満に対する主なものとして「ゴミが多い」を筆頭に、「車が多い」「駐車場が無い」「犬の散歩」などが挙げられている（図－５参照）。この他に、「舗装が悪い」「道が狭い」「案内板が無い（少ない）」および「歩道柵のデザインが悪い」などが続いている。

4. 空間評価項目からみた散策空間

（１）感覚総合評価と平均総合評価

散策空間の魅力を構成していると思われる「静けさ」や「木の多さ」などの12項目を抽出して、その評価を「5」の非常に優れているから「1」の非常に劣っているまでの5段階とした。この空間評価項目を各散策地別に加重平均したもののが表－４である。また、散策地の総合的な評価をこれらの空間評価項目が同じウェイトと仮定して、散策地毎に平均値を



図－５ 散策地に対する不満

求めた（これを「平均総合評価」という）。一方、各散策地の魅力の総合評価についても加重平均している。（これを「感覚総合評価」という）。

2つの総合評価の数値を比較すると、平均総合評価より感覚総合評価の方が0.5～0.9の差で高い数値を示している。また、評価の高低傾向は同じであり、なおかつ散策地別の平均総合評価と感覚総合評価の順位は同順になっている。このことから、空間の個々の魅力を積み上げた評価と、感覚的な評価とは相対的な関係があることが判明した。

これらの評価のうち最も高い散策地は下鴨神社、

表－４ 散策地別の空間評価

	宝ヶ池	北山通	植物園	下鴨神社	鴨川	御所	北野天満宮	嵯峨野	嵐山	評価ポイント
静けさ	4.3	2.9	3.7	4.6	3.9	4.3	3.7	4.1	4.0	9
木の多さ	4.4	4.0	4.5	4.8	4.2	4.7	4.1	4.1	4.4	16
魅力的な水辺	3.9	3.2	3.2	3.0	4.2	2.6	1.6	4.4	3.6	5
眺望（みはらし）	4.2	3.5	3.7	3.8	4.5	4.0	2.9	4.7	4.0	9
京都らしさ	3.7	2.9	3.0	4.6	4.2	4.5	4.1	4.3	4.0	8
歴史的な雰囲気	2.9	2.1	2.9	4.7	3.3	4.4	4.1	4.0	4.0	7
きれいな空気	4.5	3.2	4.2	4.9	4.0	4.4	3.1	4.4	4.3	14
街灯などのデザイン	3.4	3.8	3.6	3.3	3.6	3.7	2.4	2.6	3.4	2
ベンチなどが多い	3.1	2.3	3.1	2.3	3.4	3.6	1.5	1.8	2.8	0
人通りが少ない	3.5	2.5	3.0	3.7	3.2	3.6	3.1	3.1	3.0	1
安全性	3.9	3.3	4.0	4.2	3.9	4.2	3.6	3.1	3.6	6
明るい雰囲気	4.1	4.4	4.2	3.8	4.3	3.9	3.3	3.9	3.7	8
平均総合評価	3.8	3.2	3.6	4.0	3.9	4.0	3.1	3.7	3.8	
感覚総合評価	4.3	4.0	4.2	4.7	4.4	4.7	4.0	4.3	4.3	

御所であり、次いで鴨川、宝ヶ池、嵐山および嵯峨野が続いている。これらは、「静けさ」「木の多さ」「眺望」「京都らしさ」「きれいな空気」「安全性」といった評価項目に高い数値を得ている。

(2) 総合評価に対する空間評価項目の寄与度

散策空間の総合評価に大きな影響を与える空間評価項目を抽出し、快適な散策空間の整備の方向を明らかにしようとするものである。すなわち、どの空間評価項目が散策空間の魅力に寄与しているかを把握するものである。

このため、次に示す総合評価と評価項目の関係により評価ポイントを算出し、散策空間の快適性に寄与している評価項目を抽出する。

- ・評価項目 $\geq$ 感覚総合評価……………2ポイント
- ・感覚総合評価 $>$ 評価項目 $\geq$ 平均総合評価…1ポイント
- ・平均総合評価 $>$ 評価項目……………0ポイント

この結果、表-4の最右欄に示しているとおり、「木の多さ」「きれいな空気」が大きなポイントを得ている。このことから、「木の多さ」や「きれいな空気」といった自然的項目を中心として評価されており、「安全性」や「魅力的な水辺」のような人為的項目、さらにそのどちらともいえる「歴史的な雰囲気」「明るい雰囲気」を上回っている。

5. 快適な散策空間の形成に向けて

(1) 散策地に対する不満点の解消

散策者の約60%が何らかの不満を述べていることから、より快適な空間の創出に向けては、これら不満点の解消を図ることが必要である。

この不満項目をみると、「ゴミが多い」「車が多い」「犬の散歩」といった散策者のマナーによるものを除くと、ほとんど解決できる問題であると思われる。その中で、「トイレが無い」「座る所が無い」や1%に満たなかった「舗装が悪い」「案内板が無い」および「歩道柵のデザインが悪い」については早急に実施できるものであることから、その改善が望まれる。

(2) 空間評価項目に着目した空間整備

総合的な空間評価に影響を与えている空間評価項

目のうち、自然的項目を除いた人為的項目および自然的、人為的のどちらともいえる項目に着目し、これらの整備・推進を図ることが質の高い散策空間の創出に寄与できると考えられる。

そのためには、「安全性」や「街灯や歩道柵等のデザイン」といった人間が積極的に関わることができるものや、「明るい雰囲気」「京都らしさ」「歴史的な雰囲気」および「魅力的な水辺」など間接的に関わることができるものに対して、快適性に配慮した空間の整備・創出を図る必要がある。

6. まとめ

快適な散策空間の整備に対しては様々な視点からの研究・検討が必要であることから、本稿では京都における質の高い散策地におけるインタビュー調査を実施した。この結果が散策空間の評価とどのように関わり、かつ散策空間のアメニティ形成にいかに関与するかといった観点からの検討を試みた。これらから、次のような結果が得られた。

① 快適な散策空間の形成に寄与する評価要素

散策空間の魅力に対しては、「木の多さ」「きれいな空気」および「静けさ」といった、自然的な項目を中心として評価されていることがわかった。

② 魅力ある散策空間の形成要素

魅力ある散策空間の創出に向けては、「安全性」や「魅力的な水辺」のような人為的な項目や、「歴史的な雰囲気」「明るい雰囲気」などの自然的項目、人為的項目のどちらともいえる項目に対して積極的に整備を行っていく必要がある。

今後の課題としては、散策には散策地とは別に移動にともなう空間そのものも重要な役割を持っていることから、この空間も含めた整備の方向性を研究することにした。

[参考文献]

- 1)和田章仁・材野博司：京都市における散策実態行動の特性，土木計画学研究・講演集，NO.17，PP.387～390，1995.
- 2)和田章仁・材野博司：散策行動からみた歩行者空間の整備課題，交通科学，Vol.24，No2，pp.23～31，1996.